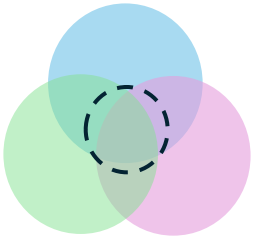
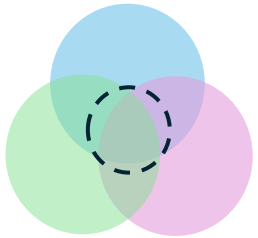
自宅でのお看取り・緩和ケア

羽根田医院
高橋信也



亡くなるまでの緩和ケア



亡くなるまでの期間も
本人や**家族**が**満足**して、
もしくは**納得**して過ごすこと

満足や納得して過ごすためには

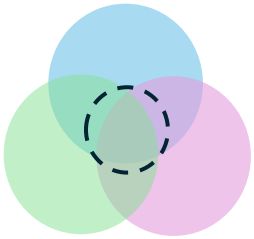
不安が少ない　苦痛が少ない
状況、環境が必要

↓

これをどうやってみんなで作っていくか

≒緩和ケア

満足や納得のある緩和ケアにするポイント



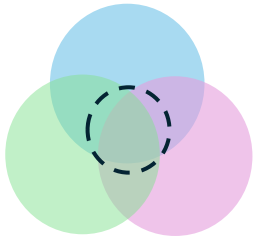
療養のための条件は様々であり限りもある
（病状、家族の状況、お金、医療資源）

100％完全に思う通り、期待通りになることは
難しいという現実はあるが

限られた条件の中でどこでどのように過ごすか
（家族と）自分で選んでいくこと

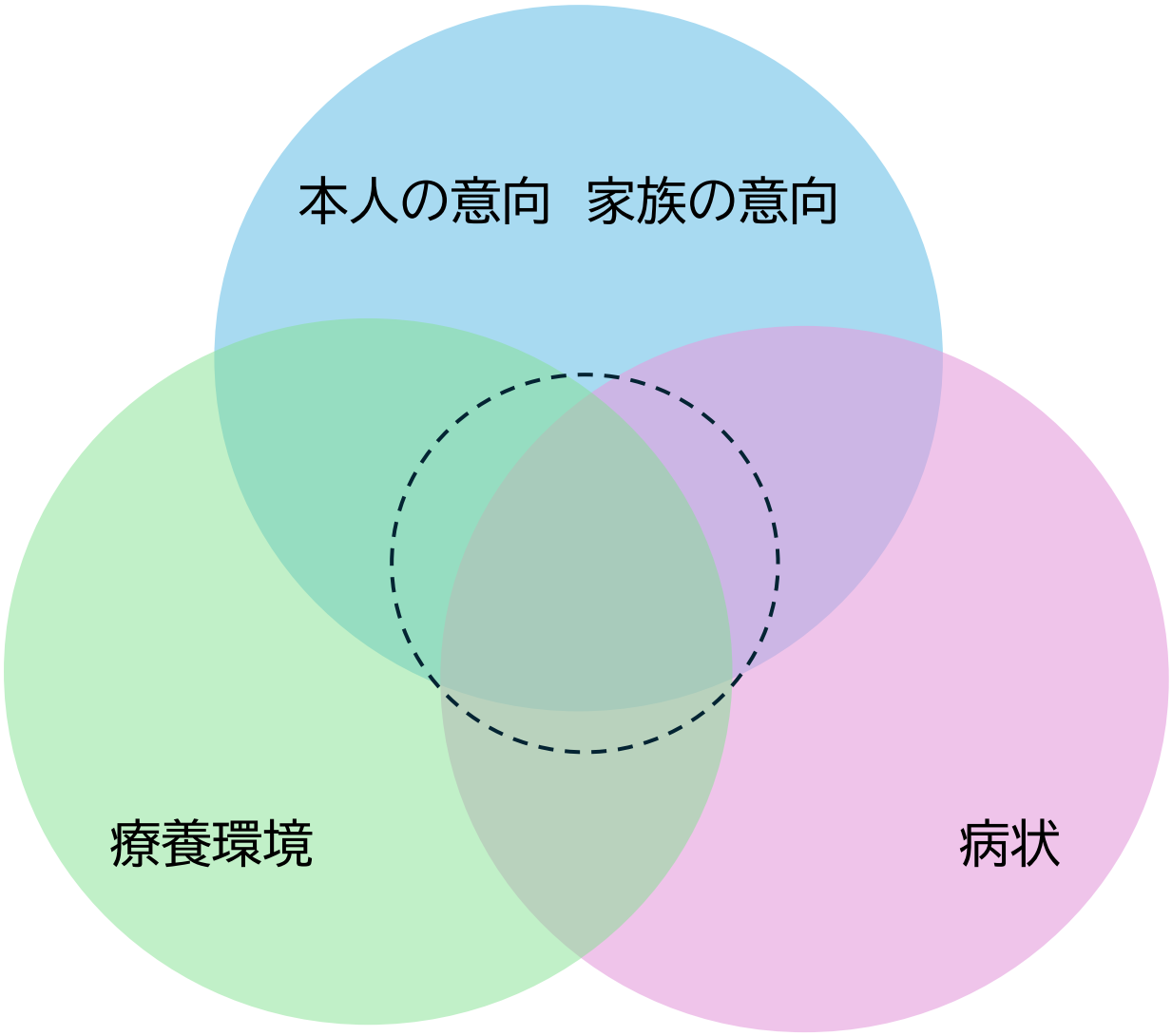
そのためにあらかじめ知っておいてほしい情報がある

亡くなるまでの緩和ケア



自宅で過ごすことそのものが、
満足や納得を得られることかもしれない
それもある種、緩和ケアといえる

自宅で亡くなるためには



自宅で亡くなるためには

本人の意向

現状、在宅医療、在宅看取りをすることは当然のことといった状況にはない

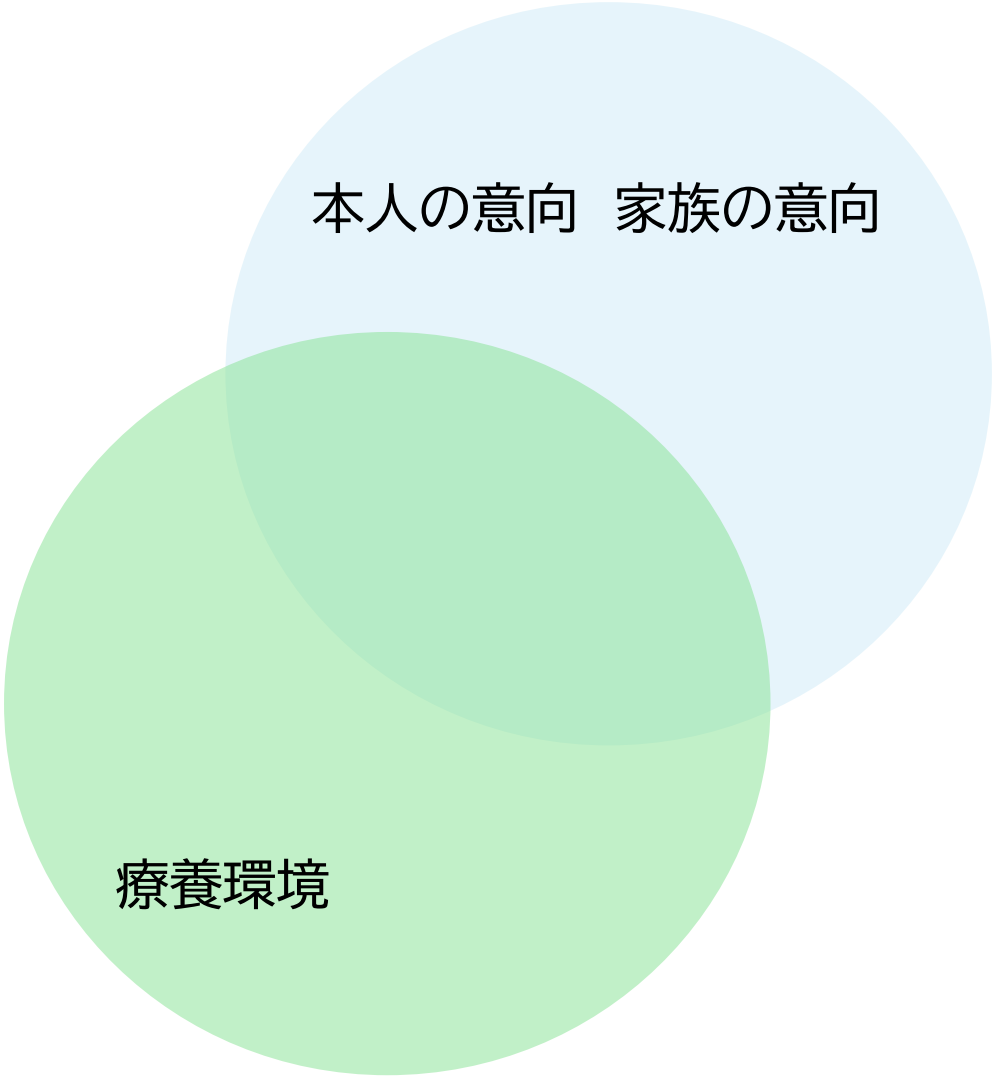
御本人やご家族が、最後の時を自宅で迎えたいという考えを持ち、
関係者にその意向を伝えることから始まる。
（医療者が、ご意向を伺うことはあります）

自宅でのお看取りに向けてスタートするためにはまず意思の確認が必要

今現在、あなたはどこで亡くなりたいと思っていますか？

最後まで医療施設で療養することのほうが安心できますか？
提供される医療は異なるが、自宅での療養を希望されますか？

自宅で亡くなるためには



療養環境

人は一人で死ぬことはできない

死に至るまでも、また亡くなった後も、必ず、誰かの関わりが必要になる。

自宅に療養が可能な環境がありますか？

自宅で亡くなるための環境がすでに完成している人は殆どいない

準備が必要

療養環境を整える

自宅に訪問診療し、自宅で看取ってくれるかかりつけ医

定期的な状態チェックや、状態変化時にまず初めに対処してくれる訪問看護師
亡くなった際の対応もしてもらえる

介護保険の申請

ベッドや手すり、ポータブルトイレなどの手配　ヘルパーの手配

ご家族の体制づくり

見守りの体制　家族、親族、ご近所の方、友人、ヘルパーさん

必要に応じて　行政との連携

自宅での療養

病院などの医療機関での療養とは違う

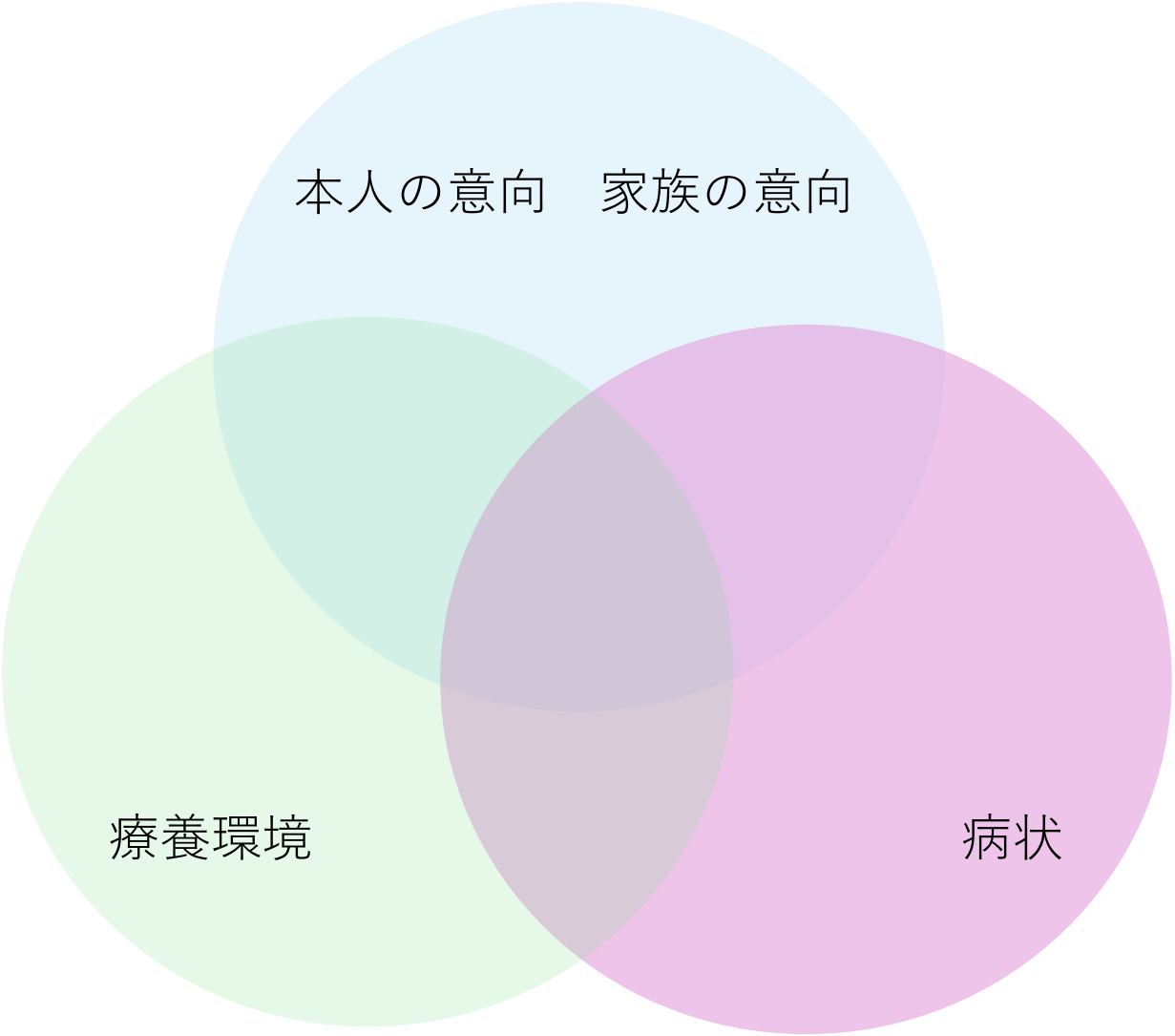
24時間365日医療スタッフがそばにいる環境ではない
すぐに専門スタッフによる対応が行われることはない

家族や、患者自身が対応する必要のある時間帯が多くなる

濃密な医療による恩恵よりも、
住み慣れた場所で過ごす豊かさを選択するということ

在宅であるがためにかえって不安や苦痛が増し、満足が得られない
状況なのであれば違う療養を選ぶ必要がある

自宅で亡くなるためには

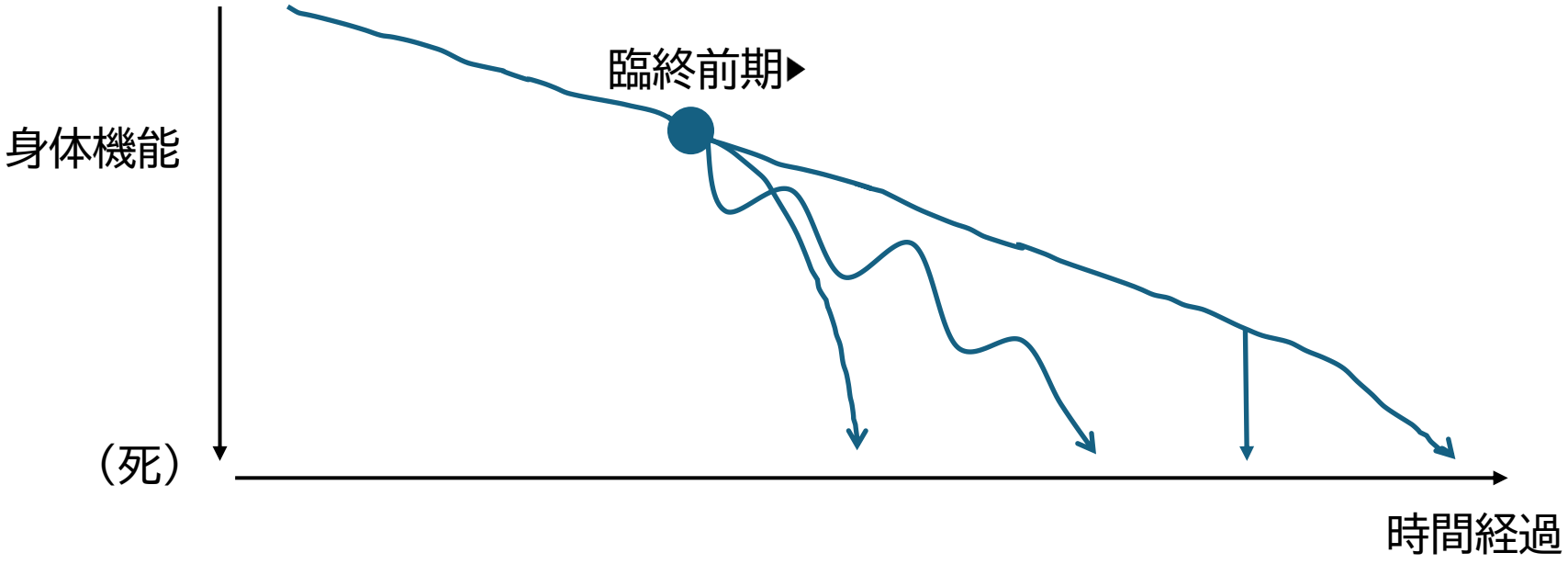


病状変化

体調は変化していく

今後の展開について予想や目処が立たないとき、不安感は増大する

知っておくことで本人、家族が心の準備ができる



臨終までの経過

皆同じような経過をたどるが、疾患によって経過する速度が異なる

起きていることができなくなる

自力排泄が困難になる

自分で歩いてトイレに行ける
介助でトイレに行ける
ベッド脇で、ポータブルトイレで自力排泄できる
ベッド脇で、ポータブルトイレで介助で排泄できる
おむつに排泄する

食事量が減る　食事が取れなくなる

水分摂取量が減る　水分が取れなくなる

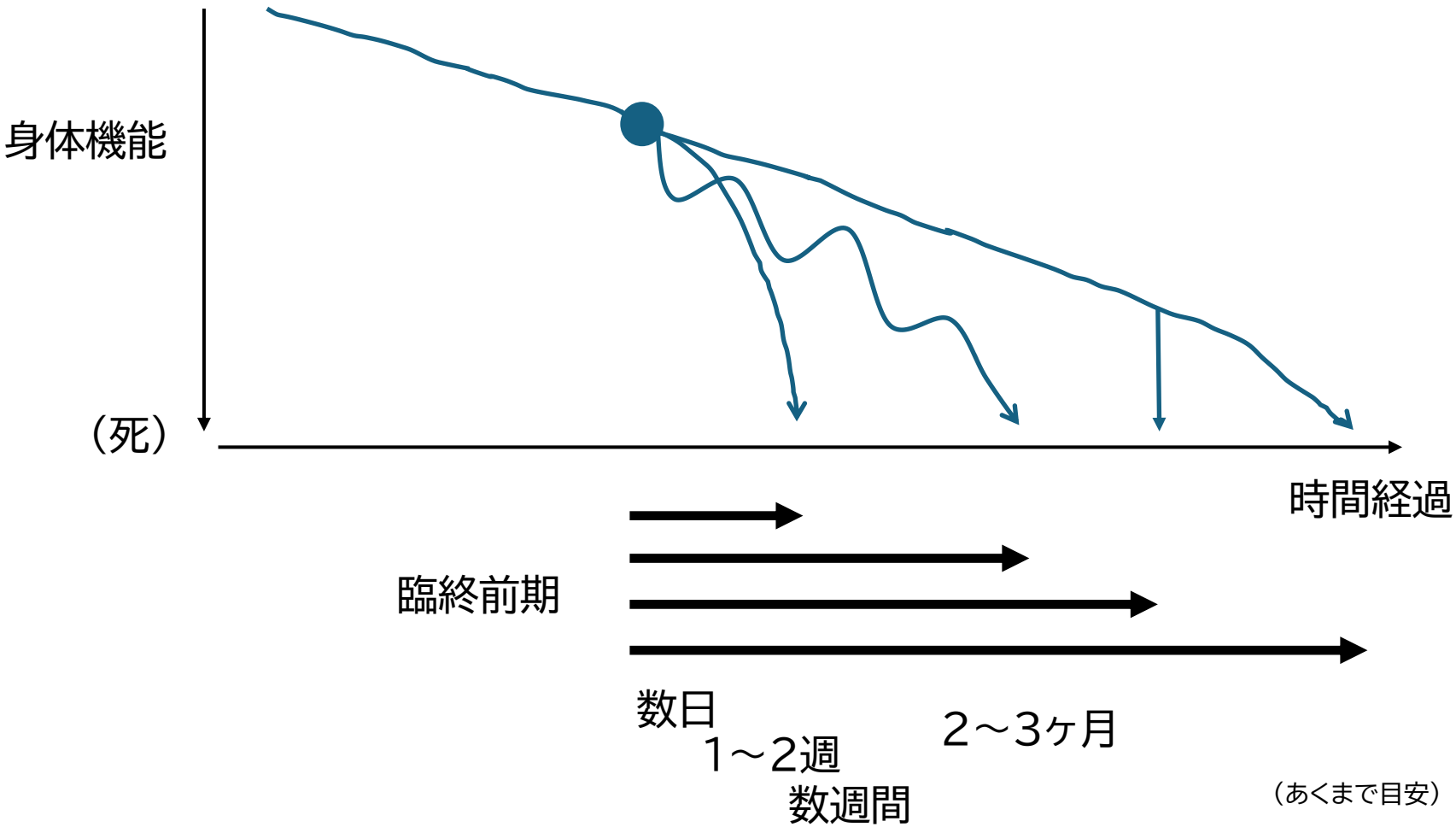
意識レベルの低下。一日の内で覚醒している時間が短くなる

排便がなくなる　尿量が減る　尿が出なくなる

血圧が下がる　脈の変化　頻脈　徐脈

呼吸のリズムの変調　無呼吸の出現　おおきなあえぐような呼吸

病状変化



自宅で亡くなるためには

担当医に意向を伝える

在宅療養が可能の状況か判断をしてもらう

在宅療養に必要な療養環境を整える

病状は刻々変化することを知っておく

満足、納得のある療養のために

どのような最後を迎えたいか意思することは大事だが、
それに縛られないように

（状況、気持ち）変化に合わせて柔軟に　対応してもらおう

在宅において臨終に近づけば近づくほど、医療の役割や
必要は低下していく
せっかくの在宅なので、最後のときは家族で迎えてよい